

経営比較分析表（令和2年度決算）

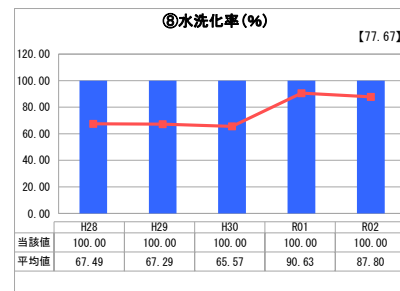
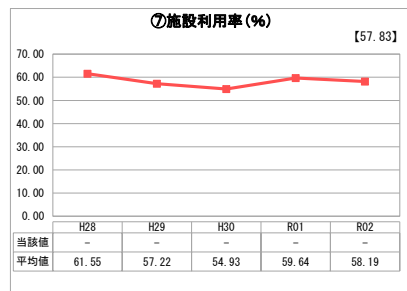
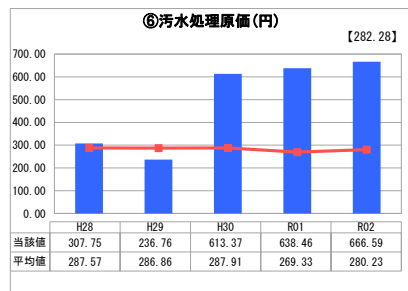
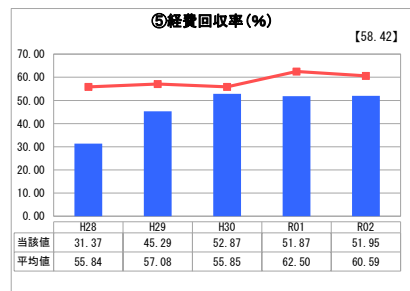
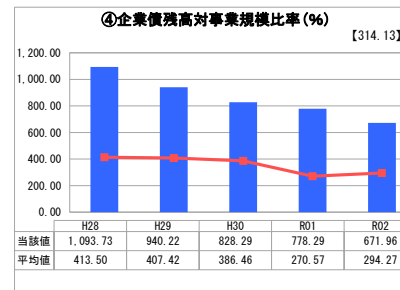
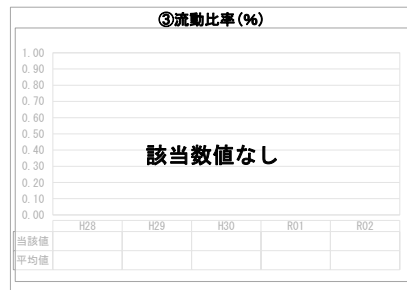
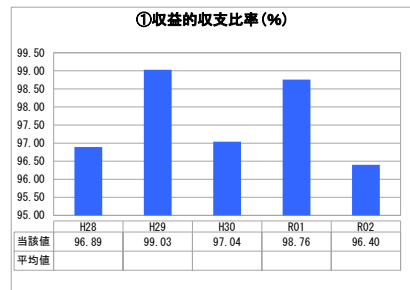
熊本県 南阿蘇村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	9.67	100.00	4,400

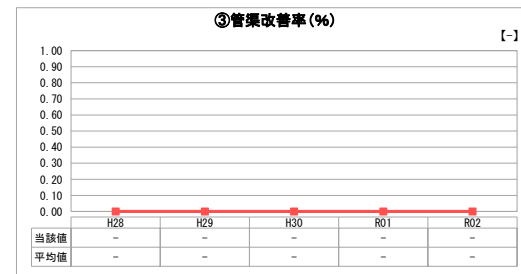
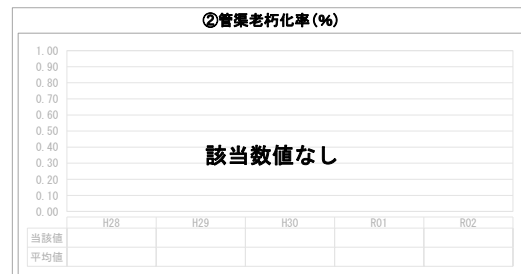
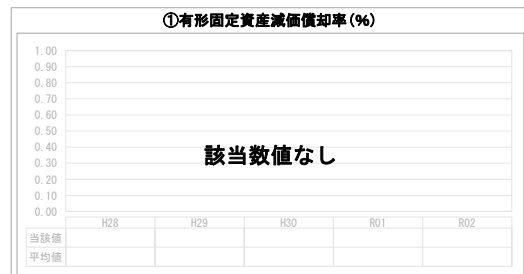
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,373	137.32	75.54
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
998	127.50	7.83

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支率が減少しているが、事業終了（新設）に伴い営業外収益（国費補助、地方債）がなくなったためである。
 ②経費回収率は昨年度とほぼ変わらないが、平均値を下回っている。使用料収入は微増しているが、それ以上に汚水処理費（人件費、修繕費、保守費用）が増加したためである。100%に近づくよう経営改善のための取り組みが必要である。
 ③汚水処理原価は、昨年度より微増であり、平均より高い数値で推移している。維持管理費や修繕費が年々増加していることが要因だが、投資の効率化、維持管理費の削減等の経営改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

古いものは事業を開始した平成16年度設置のもの（経年劣化）から、熊本地震の影響で破損したものもあり、想定以上に修繕費が増加傾向にある。また、近年の猛暑、大雨等異常気象の影響と思われるがプロワ等の故障、修理も増加している。

全体総括

経年劣化や地震の影響により、修繕費が増加傾向にある。定期点検による故障箇所の早期発見に努め、修理費用の抑制に努めたい。使用料だけでは賅えず一般会計繰入金に依存した経営体系となっており、安定的運営に向けて、使用料金の改定等を含めた経営改善に向けた取り組みが必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。